

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	臨床工学技士科(昼間部)		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	人体の構造及び機能 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時間	前期	教室名	
担 当 教 員	濱田 吉之輔	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
解剖生理学を理解する						
《成績評価の方法と基準》						
期末試験にて記述試験を行う。試験の評価と出席状況を総合的に判断						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
教科書 人体の構造と機能(医歯薬出版) 授業の参考となるプリントを随時配布						
《授業外における学習方法》						
学習課題問題を毎回提示するので次回までに確認・理解をすること						
《履修に当たっての留意点》						
高校までの算数・理科の知識を再確認してください						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	三大栄養素の必要性を説明することができる。	教科書		高校までの理科を理解しておくこと
		各コマにおける授業予定	体の構成要素			
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	細胞内小器官の働きを説明することができる。	教科書		高校までの理科を理解しておくこと
		各コマにおける授業予定	細胞内小器官			
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	人体の構成単位を説明することができる。	教科書		高校までの理科を理解しておくこと
		各コマにおける授業予定	細胞・組織・器官・系			
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	骨組織・筋組織について説明することができる。	教科書		高校までの理科を理解しておくこと
		各コマにおける授業予定	骨組織・筋組織			
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	これまでの講義内容について復習し、重要項目について説明することができる。	教科書		高校までの理科を理解しておくこと
		各コマにおける授業予定	まとめ1			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	ホルモンと酵素の違いを説明することができる。	教科書	高校までの理科を理解 しておくこと
		各コマに おける 授業予定	消化と吸収1		
第7回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	消化器系の連携を説明することができる。	教科書	高校までの理科を理解 しておくこと
		各コマに おける 授業予定	消化と吸収2		
第8回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	消化器系の連携を説明することができる。	教科書	高校までの理科を理解 しておくこと
		各コマに おける 授業予定	消化と吸収3		
第9回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	血液成分の働きと正常値を説明することができる。	教科書	高校までの理科を理解 しておくこと
		各コマに おける 授業予定	循環1		
第10回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	血液成分の働きと正常値を説明することができる。	教科書	高校までの理科を理解 しておくこと
		各コマに おける 授業予定	循環2		
第11回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	循環システムを説明することができる。	教科書	高校までの理科を理解 しておくこと
		各コマに おける 授業予定	循環3		
第12回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	免疫システムを説明することができる。	教科書	高校までの理科を理解 しておくこと
		各コマに おける 授業予定	免疫1		
第13回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	免疫システムを説明することができる。	教科書	高校までの理科を理解 しておくこと
		各コマに おける 授業予定	免疫2		
第14回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	受動免疫・能動免疫を説明することができる。	配布プリント	高校までの理科を理解 しておくこと
		各コマに おける 授業予定	免疫3		
第15回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	これまでの講義内容について復習し、重要項目について説明 することができる。		
		各コマに おける 授業予定	まとめ2		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	臨床工学技士科(昼間部)		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	人体の構造及び機能 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時間	前期	教室名	
担 当 教 員	濱田 吉之輔	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
解剖生理学を理解する						
《成績評価の方法と基準》						
期末試験にて記述試験を行う。試験の評価と出席状況を総合的に判断						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
教科書 人体の構造と機能(医歯薬出版) 授業の参考となるプリントを随時配布						
《授業外における学習方法》						
学習課題問題を毎回提示するので次回までに確認・理解をすること						
《履修に当たっての留意点》						
高校までの算数・理科の知識を再確認してください						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第16回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	循環器の基礎を説明することができる。	教科書		高校までの理科を理解しておくこと
		各コマにおける授業予定	循環1			
第17回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	循環器の基礎を説明することができる。	教科書		高校までの理科を理解しておくこと
		各コマにおける授業予定	循環2			
第18回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	血圧決定因子を説明することができる。	教科書		高校までの理科を理解しておくこと
		各コマにおける授業予定	循環3(血圧決定因子)			
第19回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	内呼吸と外呼吸について説明することができる。	教科書		高校までの理科を理解しておくこと
		各コマにおける授業予定	呼吸1			
第20回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	呼吸器系のしくみを説明することができる。	教科書		高校までの理科を理解しておくこと
		各コマにおける授業予定	呼吸2			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第21回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	呼吸器系のしくみを説明することができる。	教科書	高校までの理科を理解 しておくこと
		各コマに おける 授業予定	呼吸3		
第22回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	筋収縮のしくみを説明することができる。	教科書	高校までの理科を理解 しておくこと
		各コマに おける 授業予定	筋肉		
第23回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	アシドーシス・アルカローシスとPHの関係を説明することができる。	教科書	高校までの理科を理解 しておくこと
		各コマに おける 授業予定	体液(アシドーシス・アルカローシス)		
第24回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	神経細胞の特徴を説明することができる。	教科書	高校までの理科を理解 しておくこと
		各コマに おける 授業予定	神経1		
第25回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	脳の働きについて説明することができる。	教科書	高校までの理科を理解 しておくこと
		各コマに おける 授業予定	神経2		
第26回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	脳の働きについて説明することができる。	教科書	高校までの理科を理解 しておくこと
		各コマに おける 授業予定	神経3		
第27回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	感覚器について説明することができる。	教科書	高校までの理科を理解 しておくこと
		各コマに おける 授業予定	感覚器		
第28回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	代表的な感染症について説明することができる。	配布プリント	高校までの理科を理解 しておくこと
		各コマに おける 授業予定	感染症(肝炎)		
第29回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	代表的な感染症について説明することができる。	配布プリント	高校までの理科を理解 しておくこと
		各コマに おける 授業予定	感染症(エイズ)		
第30回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	これまでの講義内容について復習し、重要項目について説明 することができる。	教科書	高校までの理科を理解 しておくこと
		各コマに おける 授業予定	まとめ3		